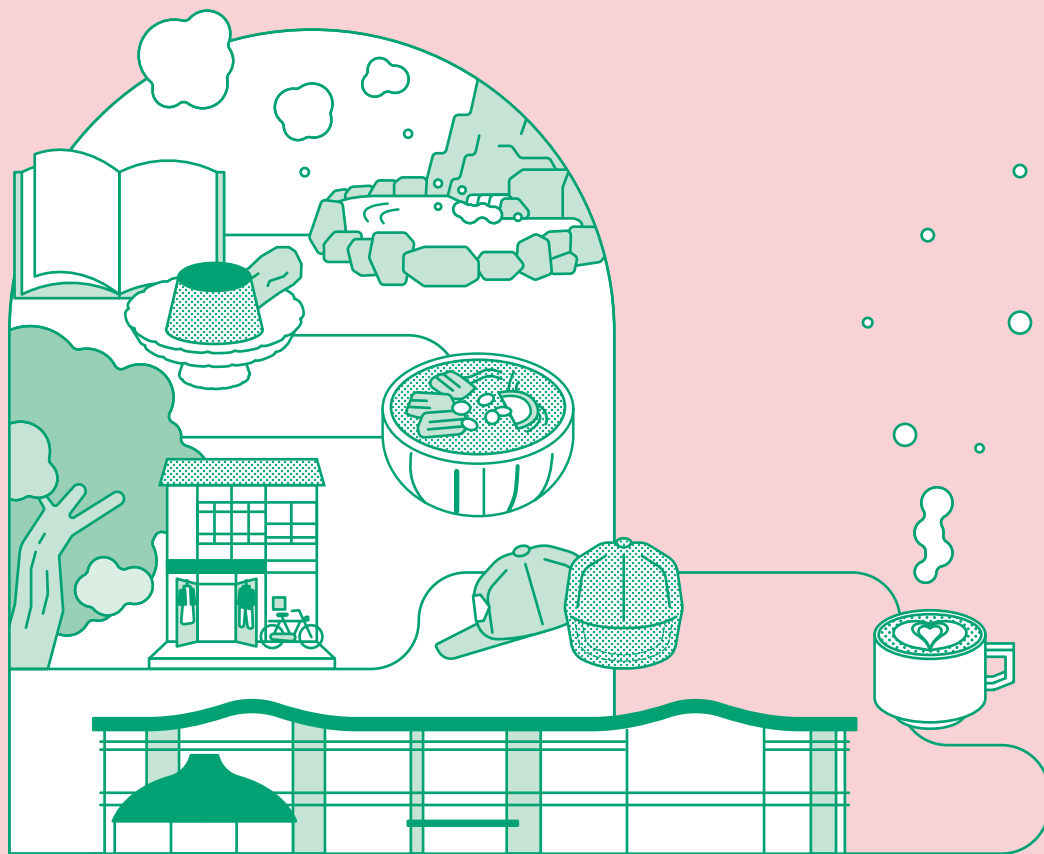


メディコス Medicos 文化道 Bunkamichi

CONTENTS

メディコスWALK / わたしがまちを歩いたら。
岐阜カルチャー案内 / MEDICOS JOURNAL

VOL.
17



メディコス文化道とは？

みんなの森 ぎふメディアコスモスが発行する季刊紙として、2021年に創刊した「メディコス文化道」。メディコスを起点に人をつなぐ文化の道がまちへと広がってほしいと願って“文化道”と名付けました。この小さな冊子が、あなたとまちの文化が出逢う大きく広い窓となりますように。

これまでの文化道はこちらから！



MEDICOS PICK UP

せせらぎの並木 テニテオ/みんなの広場 カオカオ



2013年12月に開通した並木道「せせらぎの並木 テニテオ」には、せせらぎのある小径をみんなで“手に手をとって歩こう”という想いが込められています。2015年7月のメディコス開館とともにオープンした「みんなの広場 カオカオ」は、人々が“顔と顔を合わせる広場”から、にぎわいが創出されるようにとの想いで名付けられています。

メディコス文化道 vol.17 (2025年12月発行)

発行 / みんなの森 ぎふメディアコスモス

編集・デザイン / さかだちブックス(株式会社リトルクリエイティブセンター)

[みんなの森 ぎふメディアコスモス]

〒500-8076 岐阜市司町40-5

TEL.058-265-4101

<https://g-mediacosmos.jp/>



Instagram



シビックブライド
プレスHP



みんなの森
GIFU MEDIA COSMOS

MEDICOS JOURNAL

2025
AUTUMN

メディコス
ジャーナル

メディコスの
イベント、取り組み
イロイロ紹介！

特集

◎1

秋のゆったりカルチャーマルシェ、
文化の日に開催！



マルシェには、館内外合わせて15店舗が出店。家族連れや幅広い世代の来館者が、色づき始めたカツナ並木を眺めながら、ランチやおやつを楽しんでいました。

穏やかな秋晴れの中、
多彩なコンテンツを実施！

2025年11月3日に「文化の日」の恒例イベント「秋のゆったりカルチャーマルシェ」が開催されました。広場や館内では、おにぎりやサンドイッチといった軽食、栗きんとんなどのおやつ、雑貨やワークショップの出店が並び、買い物や体験を楽しむ方々で賑わいました。「ぎふ木遊館連携プログラム どんぐりキーホルダーをつくらう」には、多くの家族連れが参加。実物を触りながらどんぐりについて学び、好き

などんぐりとさまざまなパーツを組み合わせて秋らしいキーホルダーを完成させました。「みんなのホール」では、メディコス職員の“パパ”たちによる読み聞かせ「パパたちのおはなし会」を開催！子どもたちは大きなスクリーンに映る絵本に夢中になり、セリフを声に出したり、手を叩いたり、普段とは違う読み聞かせに大興奮！笑顔があふれる空間となりました。そのほか、「スターバックスコーヒー」のドリンクづくりワークショップなども行われ、爽やかな秋空の下、ゆったりとさまざまなカルチャーを満喫できる1日となりました。



上：メディコス職員の“パパ”が心を込めて絵本を読み聞かせた「パパたちのおはなし会」。

左下：「どんぐりキーホルダーをつくらう」ではどんぐりの種類と見分け方も学びました。

右下：マルシェにはおいしい焼き菓子の出店も！



大人版ショートショート発表会
「ことばの森発表会」が初開催！

ドキドキテラスで初めて開催されたのは、「ことばの森発表会」。メディコス編集講座修了生の有志が所属する「ぎふ古今（ここん）編集部」が、「メディコスには中高生が小説を応募する



『ショートショート発表会』はあるけれど、大人がことばを綴る場が意外にないのでは？」という思いから企画した取り組みです。

2025年5月より、2006年4月1日以前に生まれた方を対象に作品募集が行われ、「居場所」「岐阜」「図書館」をテーマとしたショートショートや小説、エッセイが30作品集まりました。当日は全作品を収録した作品集を公開し、会場に全応募者の作品を展示。足を止めてじっくりと作品を読む方や、ぎふ古今編集部のメンバーと作品について語り合う方など、来館者が思い思いに展示を楽しむ様子が見られました。

さらに、6名の作者による朗読発表会も開かれ、岐阜への想いがたっぷり詰まったエッセイや、実体験をヒントにした小説、自分の人生経験から生まれた社会へのメッセージなどを作者それぞれが思いを込めて読み上げました。最後は登壇者たちが作品が生まれた背景や、執筆してみても感想、互いの作品に対する意見などを語り合い、自分や誰かが紡いだ言葉や想いにじっくりと向き合う時間となりました。



インタビュー INTERVIEW

メディコス公式キャラ
「モーリー」が
ついにお披露目！



メディコス公式キャラ
モーリー

2025年11月3日に行われた「メディコス公式マスコットキャラクターお披露目会」では、応募総数756作品の中から選ばれりデザインされた「モーリー」を初公開！作者の由愛乃（ゆめの）ナカさんにお話を聞きました！



左： 由愛乃ナカさんとデザインを担当したデザイナー、岐阜市ぎふ魅力づくり推進部長とで記念撮影。

右上： モーリーの塗り絵は子どもたちに大人気！

右下： 当日は缶バッヂやステッカーも配布されました。



選出された8作品の作者が自ら朗読。 審査員とのトークも！

2025年11月2日、第11回となる「ぼくのわたしのショートショート発表会」が開催されました。メディコス開館の2015年から続く企画で、今回は岐阜県出身の直木賞作家・朝井リョウさんと小説家・中村航さんが審査員を務めました。全国の中高校生から寄せられた152作品から8作品が選出され、全国から集まった

作者が自作を朗読。受験や学生生活の一コマを切り取った青春小説から、ソクッとするオチがあるホラー作品、生成AIやルッキズムなど世相を反映したものなど、作品のジャンルはさまざま。中高生らしい着眼点が光り、巧みな構成力や表現力に、審査員の二人や観覧客はじっくりと朗読に聴き入っていました。朗読後は、朝井さんと中村さんが作者を交えてトーク。創作の背景や、普段どんな作品を読んでいるかななどを深掘りしながら、「文章に

モーリーが末長く愛されるキャラクターになれば

メディコスは娘とよく利用していて、「親しみのあるキャラクターがいたらいいな」という思いから応募しました。メディコスは挑戦を後押ししてくれる場所だと感じていたので、そっと見守る存在として“かわいいおばけ”を思いつき、図書館のグロブや本の形の葉っぱを取り入れながら、子どもにも親しみやすいよう、シンプルでわかりやすいデザインにしました。公式キャラに選ばれて驚きましたが、モーリーの恥ずかしがり屋な性格や、頭の葉っぱ、顔のハートが好きといった声が多く、とても嬉しいです！今後いろいろな場所で活躍して、末長く愛される存在になってほしいです。

モーリーの作者
由愛乃ナカさん



特集

02

朝井リョウさん・中村航さんが今年も審査員！
「ぼくのわたしのショートショート発表会」開催！

ユーモアがあって、主人公を好きになってしまう」「一文一文のカロリーが高く、すごく丁寧に書かれている」などと講評しました。「この企画では、文章の上手さはもちろん、“作者に会ってみたくなるか”も大切に選考しています」とお二人。過去の応募者の中には高校生で作家デビューした人も。今回の応募者の今後の活躍も期待されます！



メディコスからはいま、
小さな発見の旅。

WALK

2013年

オープン

せせらぎの並木 テニテオ

2015年

オープン

みんなの広場 カオカオ

我がソウルフード。いつもの味は、裏
切ることがありません。

新しい店も、歴史ある銭湯も
まちの文化をつくっている

芝生広場が広がる金公園を抜け、清々
しい空気に包まれた八幡神社を参拝し
て、敷地内にある『WALK ABOUT』
に立ち寄ります。古民家の1階を改装
したこのセレクトショップには、衣服を
メインに、ネパールで買付けたヤクの
ウールストールやタイで見つけた鳥か
ご、知り合いの農家が育てた米まで、
店主の久徳さんがいいなと思うもの
が並び、まるでアジアの旅先で、路地
にある雑多で面白い店を訪れているよ
うな楽しい気分。
続いては、柳ヶ瀬のレンガ通りにある
『TAKURO coffee』へ。おすすめを尋
ねると、店主の光石拓朗さんがワーキ

2021年

オープン

TAKURO coffee

カフェ文化が根付くオーストラリア・メルボルンで
働いていた店主が淹れる自家焙煎コーヒーやエス
プレッソ系ラテのほか、軽食やクラフトビールも
楽しめる。音楽イベントやアート展示も開催。

岐阜市神室町1-37-10
12:00~20:00 (イベント開催時は~24:00)
月曜定休
☎ @takurocoffee

商店街の新しいシンボル
木がけ海苔グラム スル350



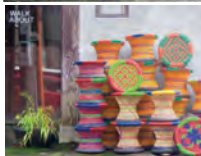
WALK ABOUT

2013年

オープン

神社の敷地内にある古民家を改装したセレクト
ショップ。国内アパレルブランドをはじめ、海外
で買付けた商品や民族雑貨のほか、農家から
仕入れる米や野菜が並ぶことも。

岐阜市八幡町16
13:00~20:00 水曜定休
TEL.058-214-2733



カラフルなネパール
47組のストール！

1917年

創業

丸デズ総本店



屋台の引き売りから始まり、1943年に「凱
旋通り」(現・金華橋通り)沿いに店を構えた、
中華そばの老舗。メニューは開店当初から
「中華そば」と「ワンタン」のみ。

岐阜市日ノ出町3-1
11:00~18:00 (売り切れ次第終了)
6・16・26日定休
TEL.058-262-9573

柳ヶ瀬
ファースト
メシロにも
個性が。



全長240m、幅30mの『せせらぎの並木 テニテオ』
には、6列に植栽された並木の間に小径やせせらぎ
が続き、メディコスと岐阜市役所の間にある『みん
なの広場 カオカオ』では、キッチンカーの出店やさ
まざまなイベントが開かれ、季節を問わずにぎわう。

岐阜市司町40-5
TEL.058-265-4101

秋に染まる並木道を抜け
金公園周辺までを一人歩き

ちようとお昼時。『みんなの広場カオ
カオ』には、広場に出店しているキッ
チンカーを覗いてランチを買い求める人
や、『せせらぎの並木 テニテオ』のベン
チでお弁当を食べる人の姿も。カッラ
の並木は黄葉が散り始め、樹々が影を
長く落としていました。

メディコスを後にして、金華橋通りを柳
ヶ瀬へと向かいます。今日のお昼は、数
日前から決めていました。暖簾をくぐっ
たのは、『丸デズ総本店』。大正時代に
東京の支那そば屋で修業した初代の味
を100年以上守り続ける老舗の名店
です。どんぶりから溢れんばかりに、
なみなみと盛られた「中華そば」の圧
倒的なビジュアル！鶏ガラのスープと
チャーシューを煮たかえして作るつゆ
に、毎朝5時前から仕込む自家製麺。

のはら湯

明治時代に揖斐郡池田町出身の野
原熊吉氏が34歳で開業した公衆浴
場。揖斐石で組まれた岩風呂で池
田山麓から運ばれる天然温泉に
浸かり、癒しのひとときが過ぎる。

岐阜市三番町13
10:00~23:00 (入場は22:30まで、日曜は8:45~)
無休 (元日を除く)
TEL.058-262-3112



いい湯だね



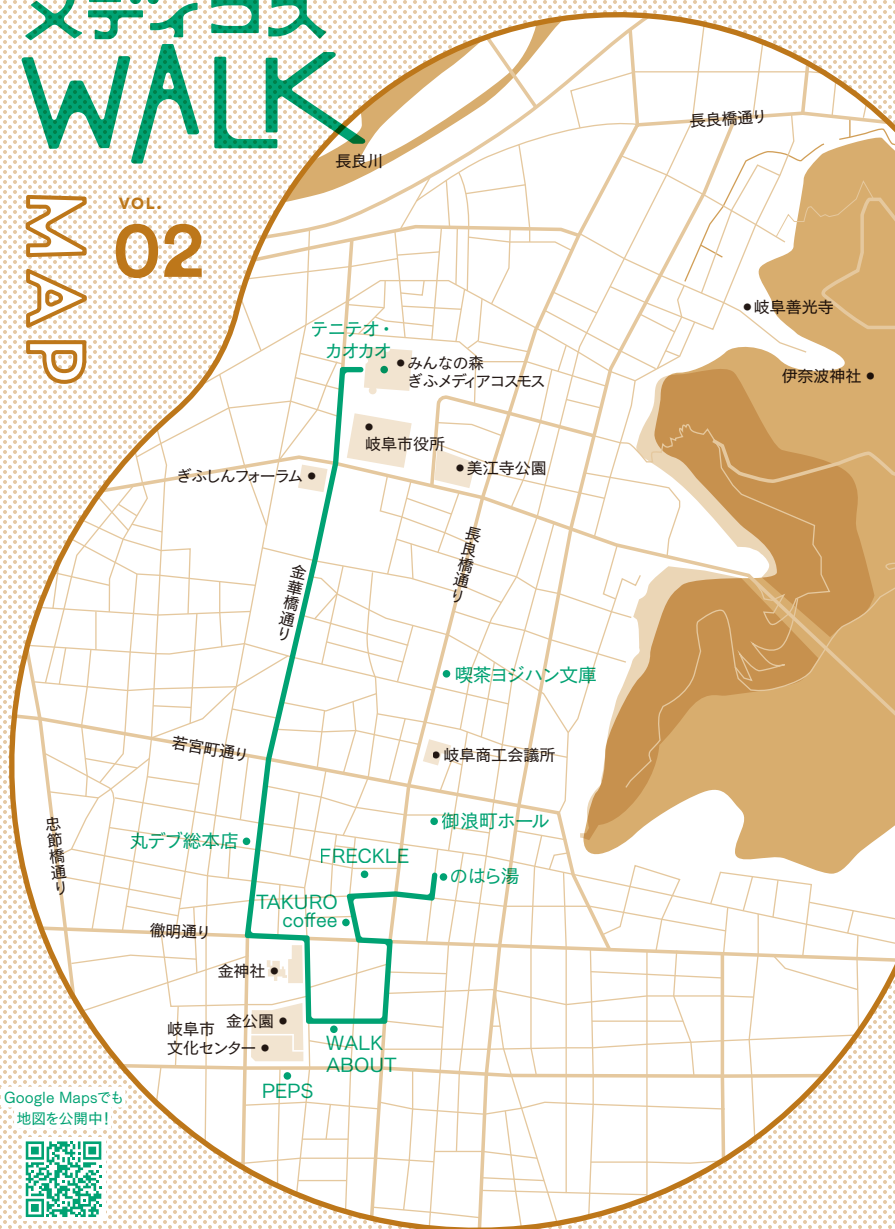
ングホリデーで1年間働いていたメル
ボルのカフェでもよく飲まれていたと
いう、オーストラリア発祥の「FLAT
WHITE」を作ってくれました。エスプ
レッソに注がれたフォームミルクの泡が
描く小さなハートを見ていると、心が
ほっこりと解きほぐされていきます。
美味しいコーヒーと心地の良い音楽、
何気ない会話に、カルチャーを感じる
ひとときでした。
最後に訪れたのは、明治開業という歴
史のある公衆浴場『のはら湯』。岐阜市
内にはかつて110軒以上あった銭湯
も、今ではわずか数軒が残るのみ。「銭
湯には、家風呂にはない爽快感や共同
浴場ならではの安心感があります。銭
湯の良さを守りたい。近年はまたプー
ムが来て、若い人も増えましたし、週
末は市外からのお客さんも多いですよ」と4代目の野原伸之さん。湯気の中に
現れる立派な岩風呂が、このまちの民
俗文化財のように思えました。

メディコス WALK

MAP

VOL.

02



Google Mapsでも
地図を公開中!



このコラムでは、メディコス編集講座修了生が
岐阜市の魅力的なスポット取材しています！

わたしがまちを歩いたら。

PEPS



岐阜市金宝町2-6森麻ビル1F
13:00~20:00 水・木曜定休
TEL.058-207-4119
@ @peps_gifu

鮎のグラフィックが印象的なブライベートブランド「Kiso Three Rivers」の立ち上げをきっかけに、2021年9月に服や雑貨のお店「PEPS」をオープンした木下潤一さん。店内には、地元岐阜とアメリカのカルチャーが感じられる「お土産」をコンセプトにしたオリジナルファッションアイテムや、お客さんとの出会いから生まれた雑貨、独自のセレ

クト商品までがずらりと並び、眺めるだけで心がワクワクする空間が広がっています。「いろんな人がお店に来てくれて、気づいたらお客さん同士も繋がりができて、いる現象がおもしろくて、もつとまちにオープンなお店にしていきたい」と木下さん。好きなものと暮らしたいという想いを叶えてくれる、心惹かれる出会いがある場所です。

喫茶ヨジハン文庫



岐阜市神田町1-6
10:00~21:00
月・火・金曜定休 (変更あり)
@ @yojihanbunko2017

2017年春、二両親から受け継いだ書店を姉妹がお一人様向けのブックカフェとしてリニューアルした「喫茶ヨジハン文庫」。店名の「ヨジハン」は「よじはんよじはん」という韓国の絵本に出てくる道草をする女の子のよう、に、時間を忘れてしまうくらいゆっくり過してほしい」という想いを込めて名付けたそうです。本棚に並ぶのは、前の書

店時代の本と姉妹の蔵書が中心のため、自分の本棚を見せたいように」と恥ずかしそうに話されるのが印象的でした。テーブルと椅子は一人掛けを中心に9席ほど。お気に入りの椅子で、ドリンクや軽食、おやつをお供に、静かに本を読み耽ったり、勉強や仕事をしたり。ぜひ、あなただけの過ごし方を見つけてみてください。

第4期修了生 吉田実加さん



岐阜市在住歴7年目。まちを散歩して、お気に入りスポットを探すのが好き。図書館と水辺と喫茶店にいると心が落ち着きます。その3つが揃う岐阜市のまちは私にとっての都。いろんなモノや考えに触れて、自分の世界を広げていきたいです。

吉田さんが
編集講座で書いた
ブログはこちら



第1期修了生 石田基樹さん



今回は、いかに読者の方々に『喫茶ヨジハン文庫』さんの良さを私らしく伝えられるかを考えながら執筆。もっとたくさんお話を聞かせていただいたの載せきれない歯痒さを感じます。取材後にいただいた「かぼすレモネード」、美味しかったです。

石田さんが
編集講座で書いた
ブログはこちら



岐阜カルチャー案内



FRECKLE 店主
中村若奈さん

昔から服が好きで、パルコや岐阜センサ、古着屋によく行っていました。柳ヶ瀬は私のファッションの原点ですね。大学時代に洋服販売のアルバイトをして服の製造に興味を持ち、岐阜市のアパレルメーカーに就職しました。ハイエースで縫製や裁断、染色、刺繍、プレス、穴かがりといった工場を回って岐阜の分業の服作りを学ぶうちに、「自分でも服作りができるかも?」と思い始めて。若かったからこそ、ですけどね(笑)。次に販売も学ぼうと転職した会社で、元パタンナーの夫と出会いました。あるとき、彼が愛用していた白シャツが販売終了になってしまっ

て。「だったら自分たちで“ずっとそこにあり続ける服”を作りたい、繊維業が盛んな

ずっとそこにあり続ける
スタンダードな服を、
岐阜で作っていきたい。

この地域ならそれができる!」と思って二人でブランドを立ち上げたんです。まずは毛織物産地の“尾州”にある工場に電話して、生地からオリジナルで作れるところを探し、2008年に一宮市で「FRECKLE」を創業しました。柳ヶ瀬に移転したのは2022年です。お客さんが気軽に立ち寄れて服に触れられる場所がほしかったのと、ほぼ岐阜で服を作っているの



ので“産地消”ができたらと思って。岐阜は小さな工場が多いんですが、実は有名なブランドの服も作っていて腕も確かです。アパレルが好き

な子をもっと岐阜に来て、一緒に盛り上げられたらいいな。自社で柳ヶ瀬に縫製工場を作っても面白いかも。そんなことも、岐阜ならできるかもしれません!

フリーク

FRECKLE

岐阜市日ノ出町1-20 ロイヤル劇場ビル1F
10:00~17:00(土・日・祝は18:00まで)
水・木曜定休
<https://www.freckle.jp/>



Website

アノ人に聞いてみた、

ファッションと演劇の話。



劇団はぐるま 代表
なみ悟朗さん

お客さんの力や共感が
何ものにもかえられない
幸せな体験をくれる。

岐阜大学で演劇研究会に入って演劇を始め、毎年夏休みは10日間、いろんな小中学校へ公演に行きました。過酷な旅公演でしたが、「こんなに子どもたちが喜んでくれるのか!」と嬉しくて。父兄も観に来てくれて、炊き出しをしてくれたり、一緒にお酒を飲んだり、歌って送り出してくれたり…。演劇とは“地域の文化”をつくることなんだと思いました。その体験が、僕の演劇の原点です。あれからもう、半世紀になるんですね(笑)。

大学を卒業した当時、演劇はほぼ東京に一極集中でしたが、僕はこぼやしひろし氏が1955年に岐阜市で創立した「劇団はぐるま」に入団しました。今、団員は30人弱くらい。全員、仕事をし

ながら週4日、夜に劇団の稽古場に集まって、稽古をしています。公演は年2回ほどで、公演前になると土日朝からずっと稽古です。最近は役者より、演出が中心だったんですが、先日久しぶりに公演で主人公を演じました。何年経っても、舞台に立つ時は緊張しますよ!むしろ、場数を踏めば踏むほど、怖いですね。劇団創立25周年記念事業として1979年に建設した「御浪町ホール」は小さな劇場ですが、だからこそ、つくる側とお客さんが素晴らしく一体化するんです。拍手や、笑いや、すすり泣き。お客さんの力や共感が、明らかに舞台を変えて、稽古とは違うところへ行ける。何ものにもかえられない幸せな体験ができる。それが、演劇の魅力だと思います。



劇団はぐるま

1955年に創立され、岐阜市を拠点に活動。70年にわたり地域に根付いた芝居づくりを行う。
<https://www.gekidanhaguruma.com/>
【御浪町ホール】岐阜市御浪町10 御波ビル3F



Website

